

院内がん登録

2015年症例報告
地域がん診療連携拠点病院
水戸医療センター



院内がん登録について

1.調査の目的と背景

平成19年4月よりがん対策基本法が施行され、その定める、がん診療の均てん化を推進するために、国立がん研究センターを含めたがん診療連携拠点病院が指定され、拡大されてきた。

これらのがん診療連携拠点病院は、各都道府県および地域におけるがん診療の拠点となり、各医療機関との有機的な連携を図る役割を持つと共に、院内がん登録の体制の整備を通じて施設の実態を把握し、さらに国レベルでのがん対策進捗を評価するためにそのデータを国立がん研究センターに提出することが指定要件として定められている。

2.登録対象

- ①国際疾病分類-腫瘍学第3版(ICD-O-3)における形態コードの性状コードが2(上皮内がん)もしくは3(悪性、原発部位)のもの。
- ②脳腫瘍に関しては、原則的に良性であっても登録対象とする。
- ③上記腫瘍のうち、入院・外来を問わず、自施設において当該腫瘍に対して初診、診断、治療の対象となった腫瘍を登録する。(他院での診断後の腫瘍も登録対象)
- ④1腫瘍1登録とする

3.登録項目

「がん診療連携拠点病院 院内がん登録 標準登録様式 登録項目とその定義2006年度修正版」に沿って登録する。

4.がん治療、初回治療の定義

院内がん登録におけるがん治療とは、1) 原発巣・転移巣のがん組織に対して行われた治療と、2) がん組織に対するものではなくても、がんによる症状の緩和・軽減のために行われた特異的な治療(吻合術などの外科手術)の両者をさす。

ある治療が、1) がん組織に対して何らかの影響(がん組織の増大傾向を止めたり、切除したり、消失させた行為)、あるいは 2) 症状の軽減を及ぼすことを意図して行われた場合、たとえそれが根治的ではない、もしくは期待する治療効果が得られなかったとしても、がん治療として定義する。

白血病以外の悪性腫瘍(がん)の初回治療の定義

- ①診療録にがん治療計画が記載されている場合、その治療計画の完了までを初回治療とする。
- ②診療録に記載がない場合でも施設における標準的な治療計画が存在する場合、その治療計画の完了までを初回治療とみなす。
- ③診療録に治療計画に関する記載がなく、施設における標準的ながん治療計画が存在しない場合(上記①②以外の場合)は、がんの進展、期待した治療効果が得られなかったと判断された、あるいは治療効果がなく別の治療を開始した時点までに行われた治療を初回治療とみなす。なお、がんの進展や治療効果の有無等の記載がなく、検討している治療が診断(起算日)から4ヶ月以上経過して、開始された治療については、初回治療に含めない。
- ④患者がすべての治療を拒否している場合は、あるいは医師が治療せず、経過観察を選択している場合、初回治療はないと判断する。がんの大きさ・性状を考慮し、診断時に治療方針として経過観察が選択され、その経過観察期間中がんの増大傾向を認めため治療が開始された場合も、この治療は初回治療に含めない(初回治療なしとする)。

⑤がん組織に対して、直接何らかの効果を期待することを目的としない治療、例えば、がんによる消化管の閉塞による症状改善のための胃空腸吻合術などの外科手術などについては、診断から4ヶ月以内に行われる場合は、初回治療に含める。

白血病に対する初回治療の定義

- ①初回寛解導入までに用いられたすべての治療、および初回寛解を維持するために用いられたすべての治療（化学療法持続や中枢神経系への照射など）を初回治療とする。
- ②初回寛解後の再燃に対して患者に行われた治療は初回治療としない。

集計内容

来院経路

発見経緯

症例区分

診断時年齢

院内がん登録数の推移

疾患別登録数

5大がん登録数(2013-2015)

5大がん＋口腔咽喉頭＋前立腺＋造血器腫瘍登録数(2013-2015)

2015造血器腫瘍登録数

疾患別治療前ステージ別登録数

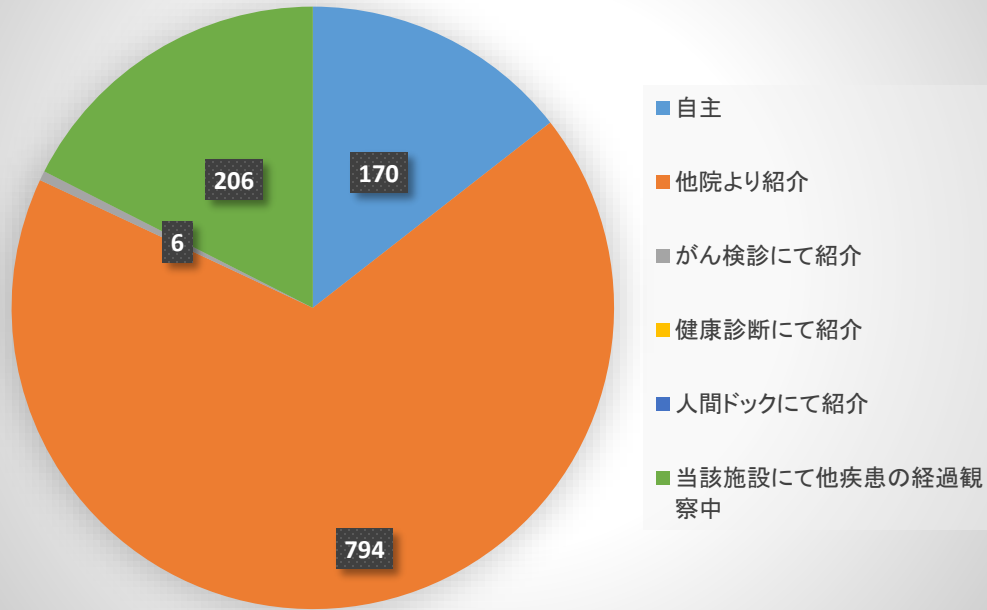
疾患別術後病理学的ステージ別登録数

治療前ステージ別治療方法(胃がん 大腸がん 肝がん 肺がん 乳がん
前立腺がん 口腔咽喉頭がん)

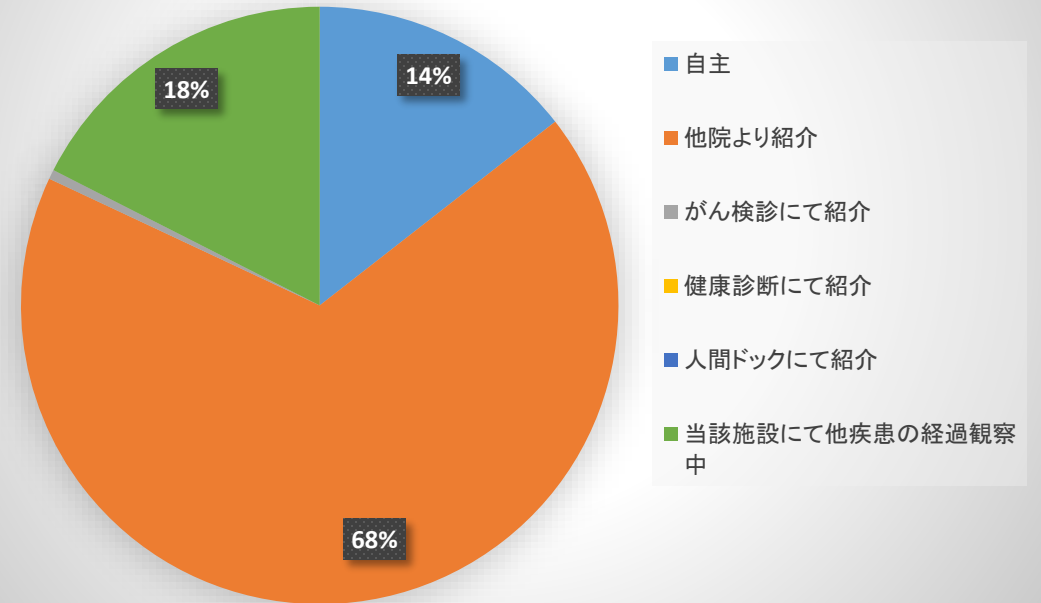
《来院経路》

来院経路は、患者がどのような経路を経て自施設を受診したかを把握するための項目

来院経路別登録数



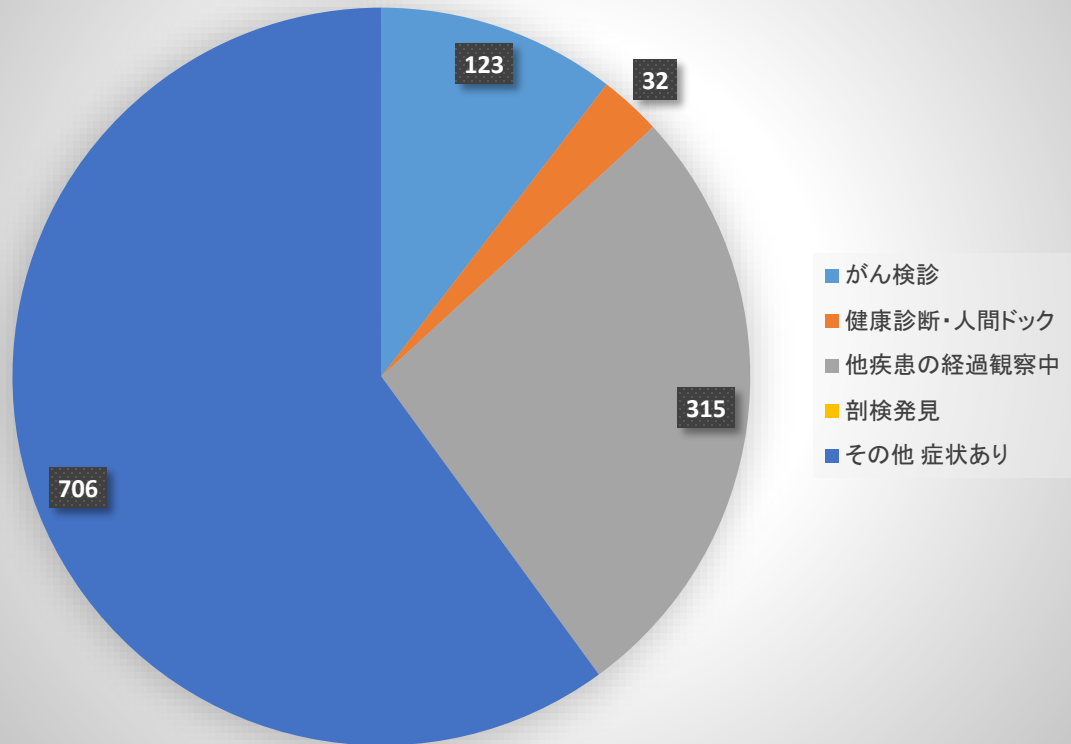
来院経路別登録割合



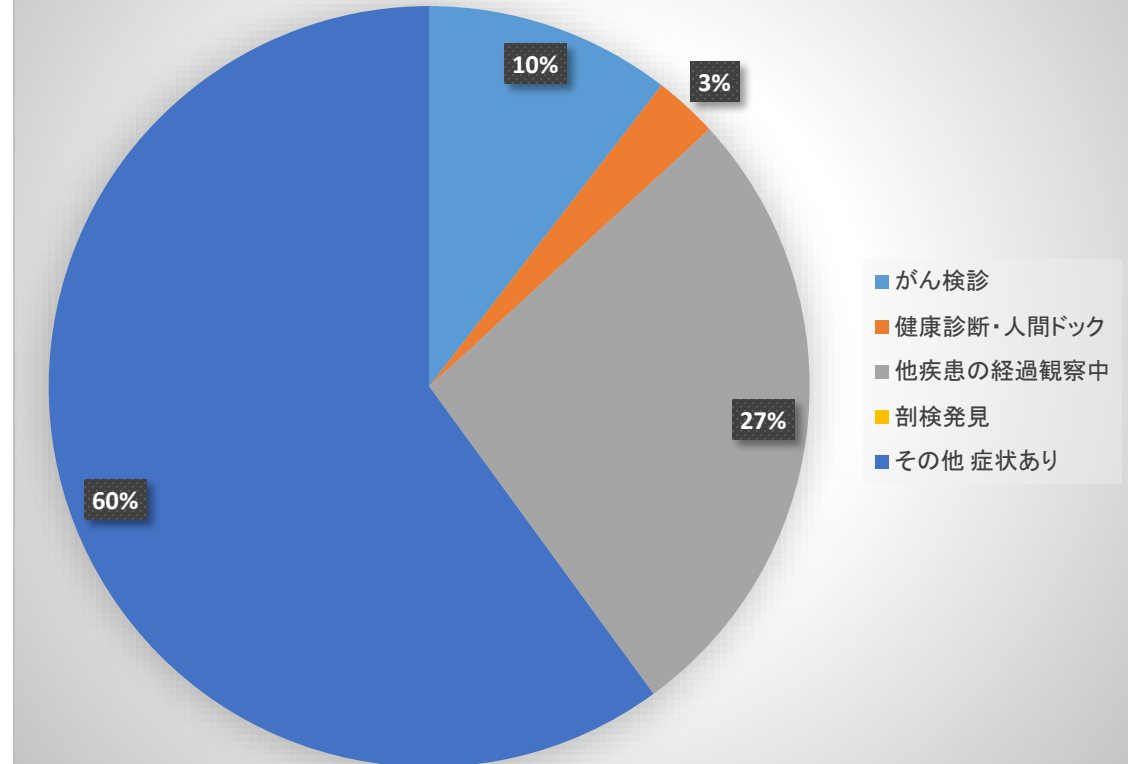
《発見経緯》

発見経緯は、当該腫瘍が診断される発端となった状況を把握するための項目

発見経緯別登録数



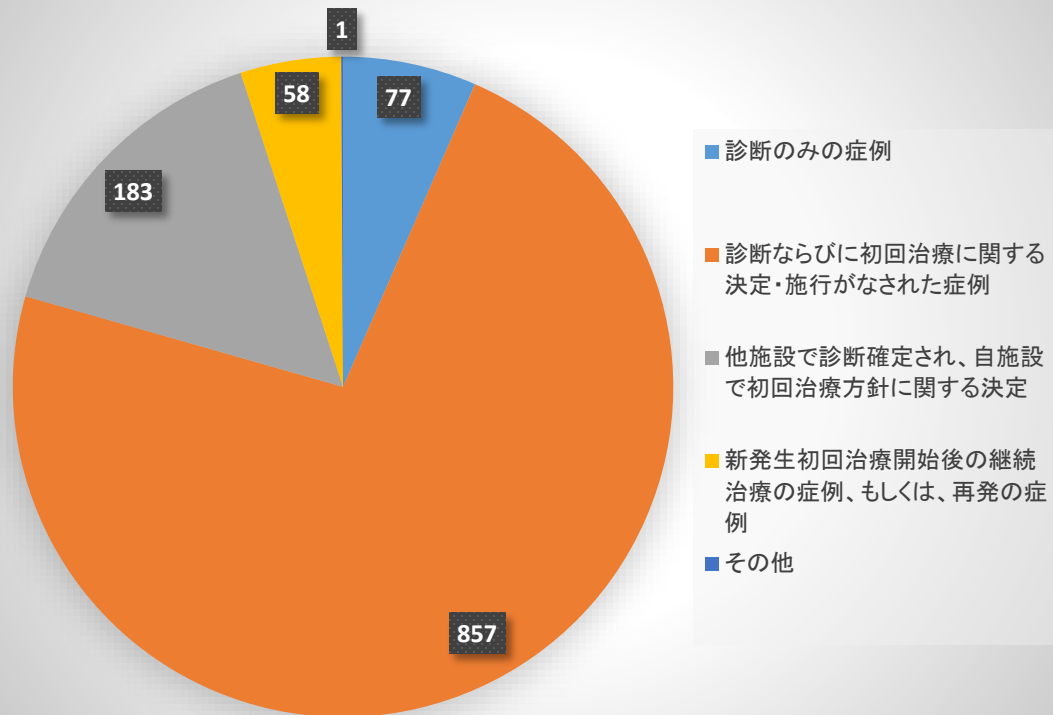
発見経緯別登録割合



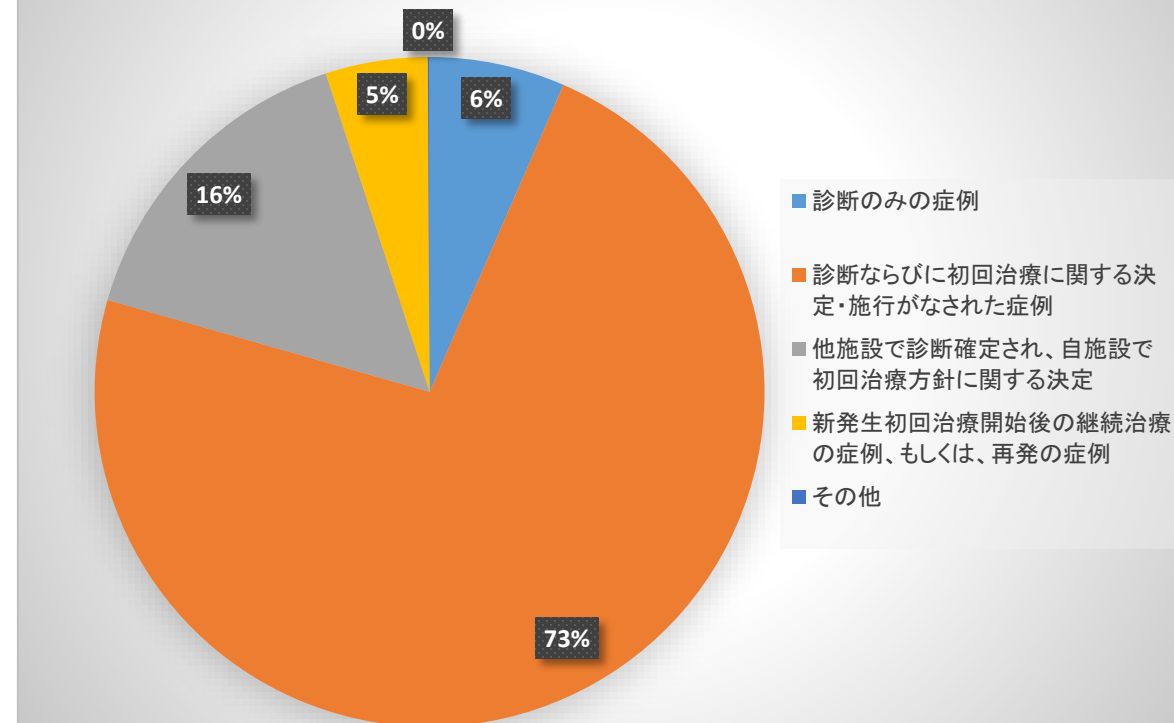
《症例区分》

症例区分は、自施設ががんの診断から再発治療までの一連の流れの中で主にどのような役割をはたしているかを推察する項目

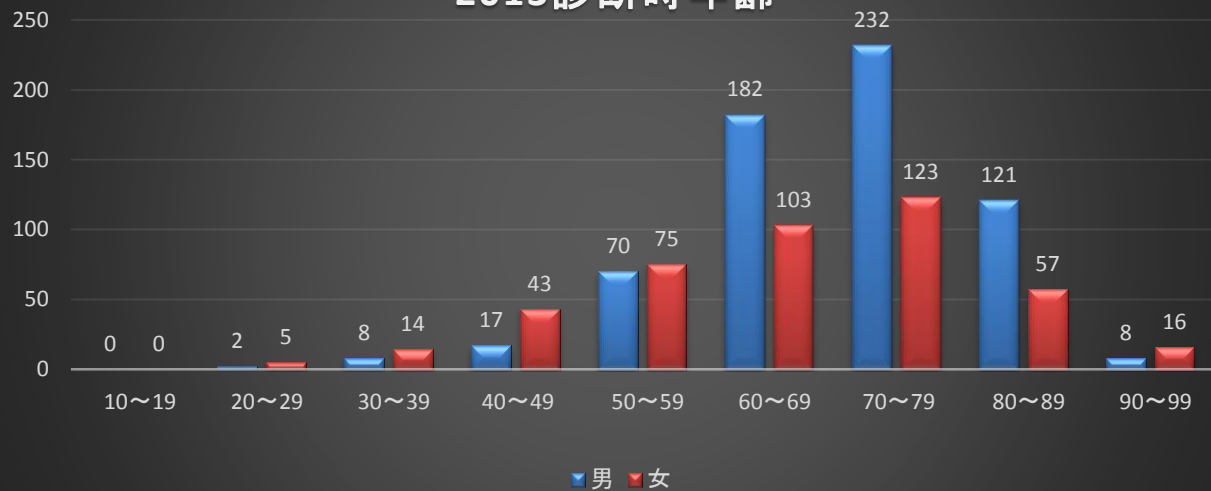
症例区分別登録数



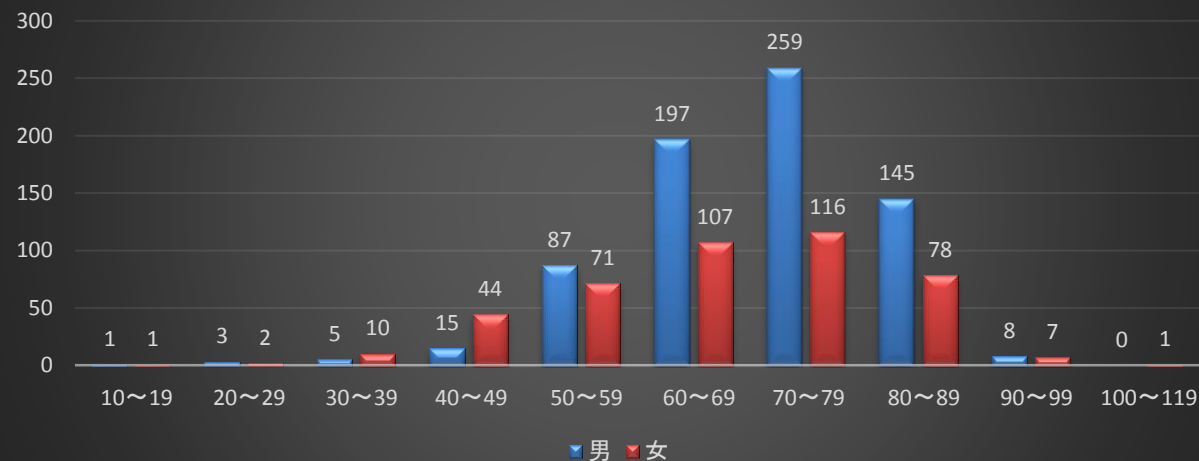
症例区分別登録割合



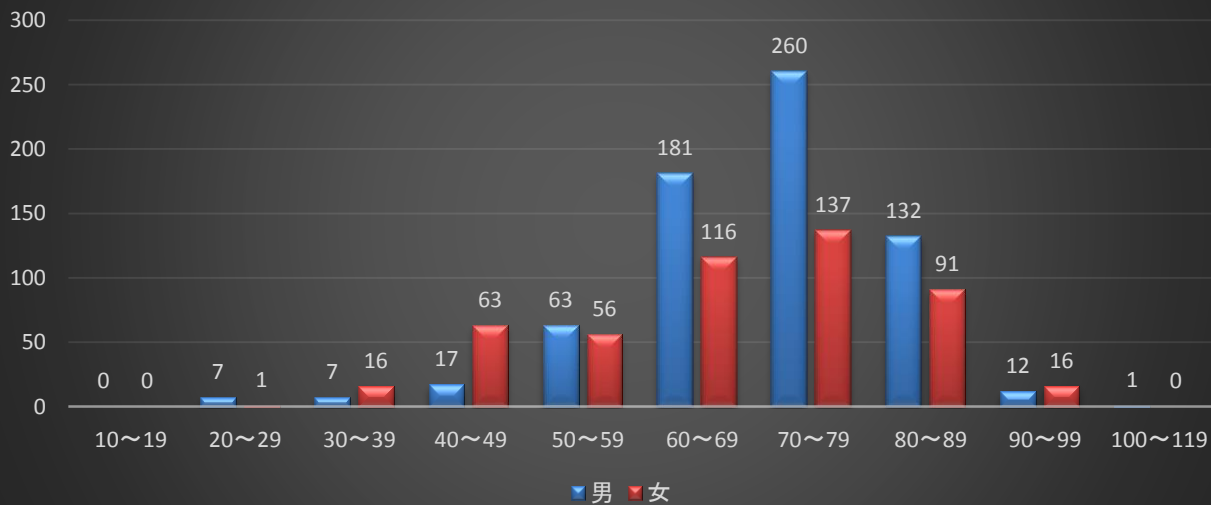
2013 診断時年齢



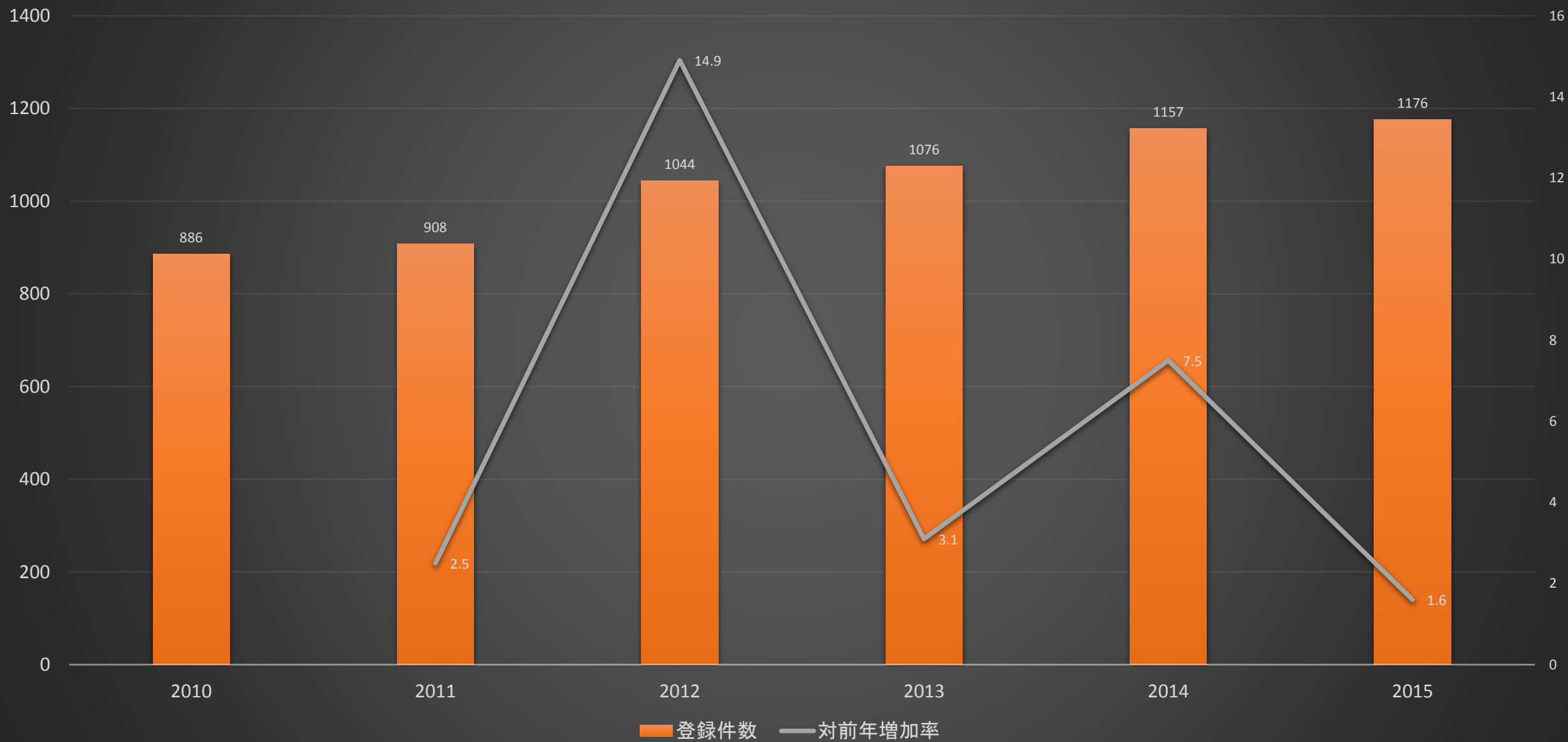
2014 診断時年齢



2015 診断時年齢

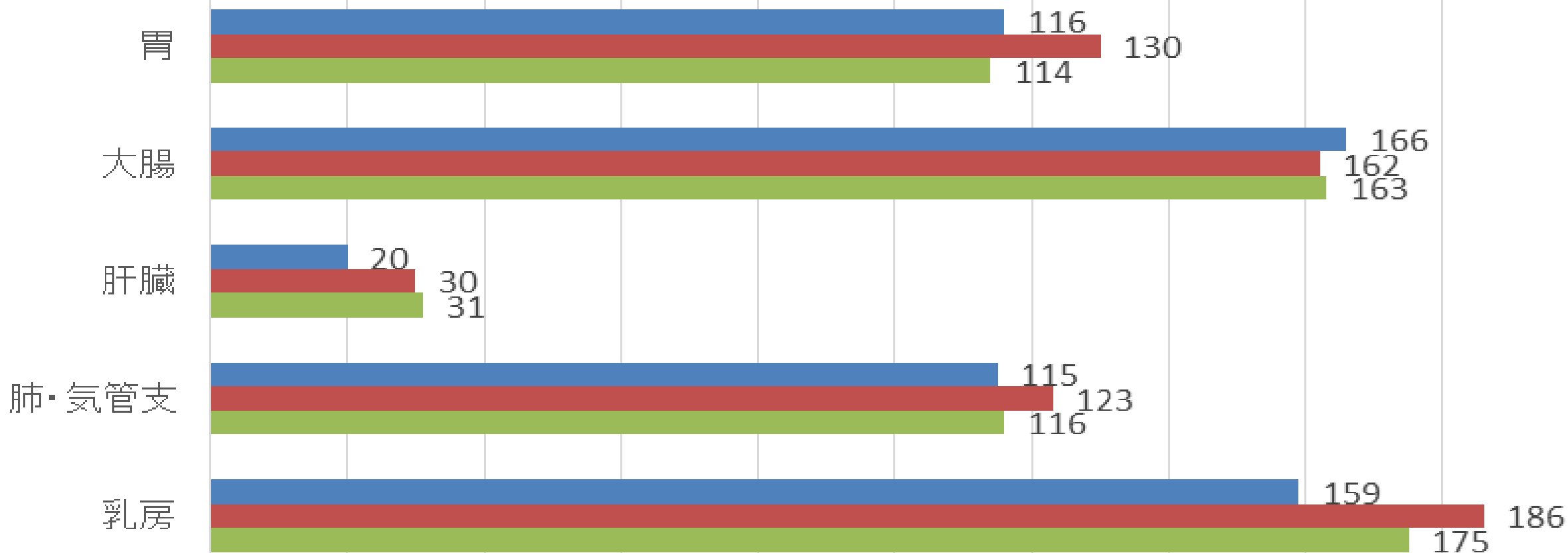


がん登録件数の推移



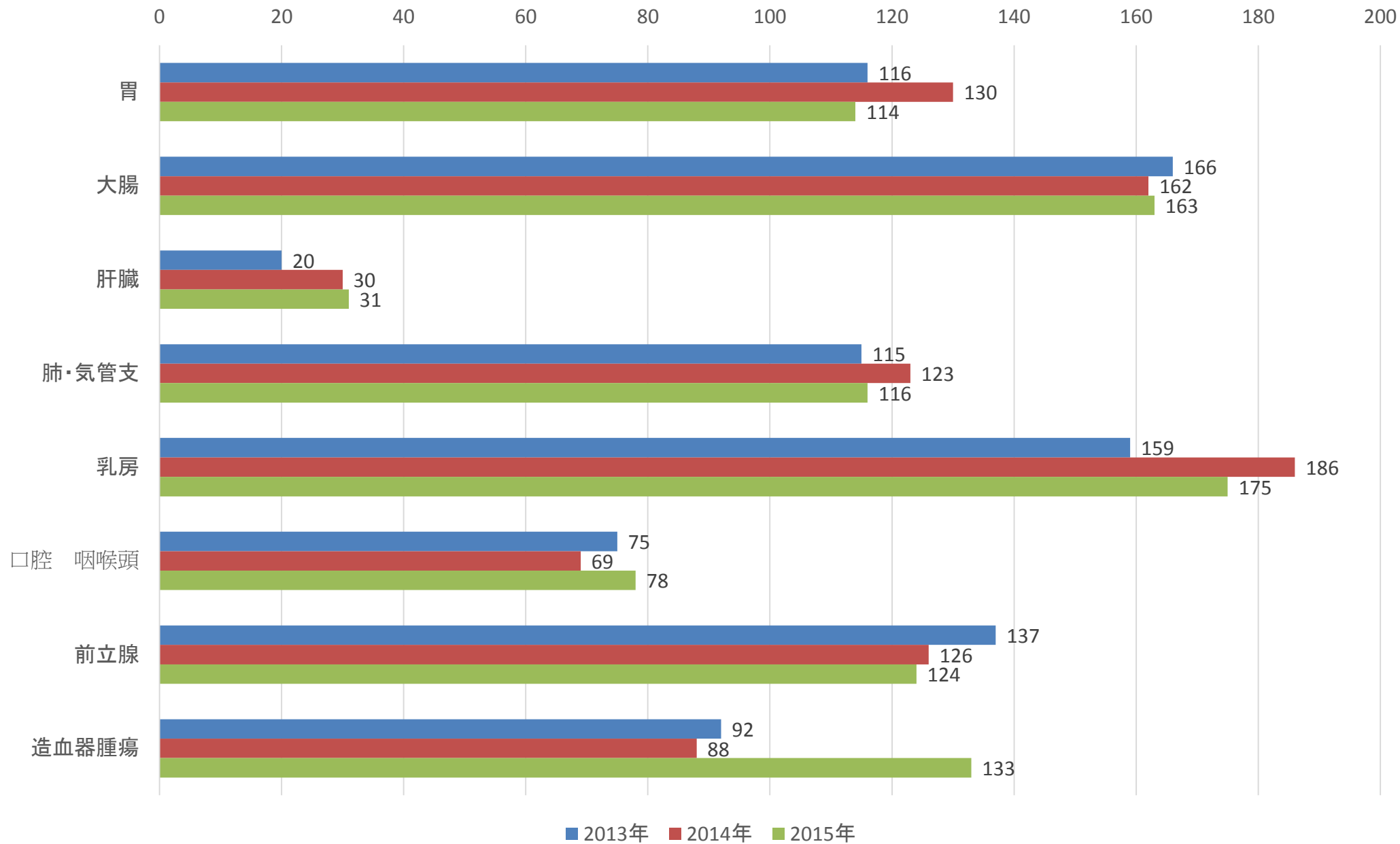
5大がん登録数

0 20 40 60 80 100 120 140 160 180 200



■ 2013年 ■ 2014年 ■ 2015年

5大がん＋口腔咽喉頭＋前立腺＋造血器腫瘍



2015造血器腫瘍登録数

